

「裁かれないために」(要旨)

聖書箇所：マタイ 7:1-12

【1】 さばいてはいけません

「さばいてはいけません。自分がさばかれないためです」(7:1)とてもシンプルな命令です。これはスネにキズを持つ者同士、互いに干渉しないという意味でしょうか。主イエスは、偽預言者を見分け(7:15-)、パリサイ人やサドカイ人たちの誤った教えを用心するよう命じました(16:6,12)。罪を犯した者への対応についても言及されました(18:15-17)。ですから、さばくことそれ自体を禁じているのではありませんでした。イエスが問題にされたのは、他人をさばく「秤」を自分自身に適用しない偽善でした。

私たちは他人の誤りに良く気付くという特技を持ちます。一旦、気付くと、とことん追求したくなるものです。そうした時、相手がどのような状況で誤ったのか、想像することが難しくなります。誤りそのものに目が奪われて、相手を生かすためでなく、自分の憤りを鎮めるためにさばいてしまうのです。イエスはそのような者を「偽善者よ」と呼ぶのでした。あなたは自分の目の梁に気付いているのか、と。自分の誤りや問題を見過ぎしながら、人をさばくことに熱心になっていないかと警鐘を鳴らすのです。

【2】 兄弟の目からちり取り除く

聖書は、人が罪の性質をもって生まれてくることを教えます(マタイ 15:19,詩篇51:5,エペソ2:3)。そうした罪の性質は、人を量る秤を歪めます。そのため、人は自分の誤りには鈍感で、兄弟の小さな誤りには過敏に反応するのです。相手をさばく前に、自分がどのような者であるのかを正しく知り、自分の目から梁を取り除く必要があるのです。

聖霊がみことばを通して、私たちの心の中にある罪に気付かせてくださり、それが正しく取り扱われる時、澄んだ目で兄弟の目

からちりを取り除くことができるのです(7:5)。

【3】 なぜ祈るのか

「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。」(7:7-8)

私たちは、どのような時に熱心に祈るでしょうか。自分の力の限界を思い知らされる時でしょう。主イエスは教えられました。父なる神は「ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか」(7:11)と。

私たちは目の前にいる相手を自分が良い方向に導くことができると思う時、相手の間違いを指摘して誤りを気付かせようと力を注ぎます。しかし相手の反応を通して、自分自身の限界を痛感させられるのではないのでしょうか。私たちはまず自分自身が、神様に取り扱われる必要があるのです。自分の中にある「梁」を認める時に、祈りが生まれます。神の憐れみを求めて祈るようになるのです。そうして熱心に祈る時、人に向かう姿勢にも変化が生じるのです。

イエスは次のように言われました。「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」(7:12)

